

作成担当として始めての取材で、ドキドキしながら取材に向かうと、愛車の軽トラックに乗りとてにもこやかな笑顔で出迎えてくれた。

今回、取材に応じてくれたのは、神川城自治会の今熊亮太朗さん。

農業大学校を卒業後、JA鹿児島きもつきに勤め園芸の専門として15年目になるそうだ。

今は、バレイショの選果やインゲンの出荷など毎日遅くまで忙しいらしいが、疲れた様子もなく生き生きとしていた。

仕事について尋ねてみると、「時期によって担当する作物が色々あるがとにかく、錦江町は農業中心の町なので農業をもつと発展させるために農家の方々と共に頑張っていきたい。そのためにも農家の方々とうまく連携をとりながら、農業のまちを作りたい」と熱く話してくれた。

取材の合間、幾度となく地域を盛り上げたい、発展させたいという言葉を聞いた。

これまで、今熊さんが行つて

今熊さんの実家は、畜産やバレイショ、インゲンなどを生産しており、幼少の頃から農業の大変さや難しさ、出荷時のドキドキ感や喜びを味わってきた。大変な面を知っているからこそ、今の仕事の重要さが分かると話した。

きた地域活動からも「盛り上げたい」という事が垣間見える。青年団時代、剣道で全国大会に出場し、町をPRしたり、町の会長を行い、各地域を盛り上げてきた。現在も自治会のミニバレー大会や地区の消防団などを行っているそうだ。

## 「今月の表紙」大募集！

「広報きんこう」では、表紙に登場してくださる方を募集いたします。

今年度の表紙のテーマは「絆」です。家族の絆・夫婦の絆・仲間との絆、いろいろな絆があります。あなたの絆を広報紙という形で残してみませんか？自薦他薦は問いません。

詳細についてのお問い合わせや推薦などは下記までご連絡ください。

**【お問い合わせ先】**役場企画課 未来形成チーム  
TEL 0994-22-3032

●4月1日付けの異動で、5年6ヶ月田代支所の地籍調査係として猪と間違われながらも野山を駆け回り、境界確定の処理を行ってきました。地籍調査を行いながらも、その土地の風土や史跡、歴史やその時期にしか取れない食材や花々など多くのことを学ぶことができました。この場をお借りしてお礼申しあげます。



### EDITORS

今後は、鎌からペンに持ち替えて『広報誌』を作成し、少しでも早く、前任者の「記事」や「ルックス」に近づけるようにがんばって行きたいと思います。

また、東日本震災の復興支援にも4月の初めに行き、復興していく姿に多く

今回広報担当として始めての取材で、ドキドキしながら取材に向かうと、愛車の軽トラックに乗りとてにもこやかな笑顔で出迎えてくれた。

# 錦江に生きる

From young people in the future

◎このコーナーでは、町内でこれから根を張っていく若者を中心に紹介していきます。第47回目は、神川城自治会の今熊亮太朗さんです。

●47人目

今熊 亮太朗 さん 【神川城自治会】



愛車の軽トラック。農業発展のために頑張りたいと話す今熊さん。

ん方監督がメインらしい……。最後に一言ないか聞くと、「二世帯住宅を自分が作りました。親孝行者です。」と冗談交じりで答えてくれたが、仕事の関係で錦江町外に異動になつたり帰りも遅い事もあるので、家族や親にも心配をかけないように、二世帯住宅を作った様子。家族を大事にしながらも地元にしっかりと根を張り、今後の錦江町発展のためにがんばりたいという姿が見えた。今熊さんは、地域を楽しみながらも将来を考え、がんばっている好青年でした。

の絆を感じました。『広報きんこう』にも多くの絆を見い出せるように、尽力いたしますので、今後ともご協力・ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。



発行／錦江町役場

■編集／企画課 〒893-2392 鹿児島県肝属郡錦江町城元963番地 tel.0994-22-3032 FAX.0994-22-1951

■ホームページ／<http://www.town.kinko.lg.jp/> ■印刷／(有)南大隅新生社印刷

